

2011年10月27日、28日の視察

報告者 川島 さゆり

<松江市の小中一貫教育について>

松江市では、行政の強いリーダーシップのもと、地域一丸となってみんなで大切な子供たちを支え、育てようという「熱き、強き」思いに大変感動を致しました。

まず、思春期である年齢が以前より大変早くなっている事に危機感を覚えました。特に、体の成長が女子では小学5年から6年が大変顕著な事、男子も中学1年、2年がピークで以前より1年から3年早い、又不登校も小学6年から環境の変わる中学1年にかけて劇的に増加するいわゆる「中1ギャップ」が現れる、又、教科学習の理解度も急激に落ち込むのも、ちょうどこの時期と重なります。

このことに松江市では、いち早く危機感をつのらせ小中一貫教育に踏み切ったいきさつもお聞きできました。

モデル校としての「八束学園」は施設一体型、他に施設隣接型、施設分離型（当町はこれ）として校区タイプ別に推進をされていて、それぞれ特色をいかして取り組んでいます。

大きくは、「たての一貫」として、小中の教職員共同指導体制がしっかりしていて、年数回合同会開催をしてここで、共通情報を得ている事、あと授業研究もされていますし、何よりも小中一貫カリキュラムが出来ていて、1年から4年、5年から中1まで、中2から中3までの「4. 3. 2」システムがすばらしくカリキュラムの他に目標重点活動も各教科ごとに設定されています。

他にも、小中乗り入れ授業では、新しい環境になった中学生のところへ、小学校の先生が授業に行くという画期的な取り組みで、不安を解消してあげ、逆に小6の生徒が中学体験し親しみを持ったり、ロードレースなどを合同開催して交流を図ったりいろいろ工夫をされています。

「よこの一貫」では、全中学校区に「地域推進協議会」（中学校区の地域代表、保護者代表、学校代表等で構成）を設置し、学校、家庭、地域が協働して地域ぐるみの教育を推進しています。

あと、全中学校区に「地域支援本部」（地域コーディネーター）を設置し、無償での学校支援ボランティアとして地域の住民の方、保護者の方に参画してもらい活動してもらう連絡、調整などしています。

「例」お裁縫教室、賞状書きボランティア、花壇整備、「サタデースクール」「サマーチャレンジタイム」放課後子ども広場、登下校の見守り、地域の特色を生かした体験活動など

「成果」としては、学力の向上、不登校の減少、学校教育に参画する地域住民

の方の増加があげられます。

特に、「行事カレンダー」は小中学校と公民館行事を全て掲載し、全保護者、交番、公民館に配布し、地域の取り組みがわかるようになりました。

又、「ノーテレビ、ノーゲーム運動」をモデル校から始め成果として家族のふれあいが増え、各学校で推進しています。

教育委員会の人事も市の熱き思いで現教職員の出向などプロを確保している点など、この松江市の教育に対する思いに、子どもを市の「宝」として大切に育んでいる温かい市である事に大変感動をして帰ってまいりました。

市と町は違うとはいえ、子どもを育てる心にどこも違いはなく、当町でも教育委員会の強烈な主導のもと、軽井沢町らしい教育づくりの取り組みができればと思います。